

メーブルレター(23)

雪が降り続けています。時折お日様を見ることがあるとはいえ、11月半ば頃からほぼ曇り空か雪空です。それでいてどうしたことか、深く積もることがなく雪に埋もれて歩くことがないのです。年末のこの時期は、クリスマスイルミネーションが反射する雪景色は夢のようにキラキラと輝いています。

ドリトル先生とマダム田中の老父婦もどうやら無事に年越しができそうです。この一年間家族に変動があり、どうやらクリスマスはバラバラに過ごすことになりそうです。35年以来初めてのことです。離婚裁判中の義理の長男は新しいパートナーとクリスマス、義理の次男は最果てのど田舎のフレデリクトンの雪の中で家族と小さなクリスマス、娘は早めに私達とイヴをして、オタワの夫の実家でクリスマスをすることになりました。そうした中、モンリオールの暮らしや友人へのノスタルジーにかられた義理の次男が年末に2-3日間こちらに戻ってくることになり、それに合わせて家族全員が集まることになりました。どんずまりの30日ということになりそうです。

義理の長男の新しいパートナーも自分の子供(男の子2人)を連れてこの集りに来ることになりそうです。どうやら、孫達は6人と思っていた方が良さそうです。心配していた長男の子供達とパートナーの子供達もすぐに打ち解けて、「パパ、僕、前からお兄さんが欲しかったんだ。いっぺんに二人もお兄さんができたんだね。」と目を輝かせて息子が長男に言ったようです。長男は胸をなでおろしていました。

「色々とおあるけれど、問題はそれほど大事ではないのよ。一つずつ解決すれば良いんだから。」
「努力するだけかなあ。動くしかないだろうね。元嫁のことを思うと悲しいし辛いけど。」
とは、長男とパートナーの言葉。パートナーはルーマニアからパリに親と逃れ、その後モンリオールに来て成長し、才能と努力でテニス界で世界の10位内に10年間いたという経歴の持ち主だけに穏やかながらしっかりとしたものがあります。でしゃばらない、なかなか良い子です。その蔭で泣く長男の元嫁の顔がちらつきますが、もう元には戻らないことです。辛くても人生のページはめくることになりそうです。新しいカップルの行方を私達はそっと見守ることになるでしょう。ゆく年くる年、行く者来る者ということになりそうです。

こちらでは、家族で過ごすクリスマスとは違い、大晦日から新年にかけては友人同士で過ごします。美味しいものを食べ、お酒を飲み、新年に向けてカウントダウンをしていきます。年が変わった瞬間に我が家の前の港には一斉に花火があがります。拍手なども聞こえてくるかのようです。

ドリトル先生は剣道で新年も終われそうです。1月末にはダラスで行われる北米ゾーン国際審判セミナーに出席することになっています。娘の茜は、「マイプリンセス手伝って」という、審

判セミナー担当責任者のアメリカ剣道連盟会長の依頼でセミナーの通訳兼ドリトル先生の通訳として同行することになっています。マダム田中は、生花の社中のおばさん新年会でスタートです。持ち寄りパーティです。モンリオールのおばさん達は、日本のおばさんのように料理の腕も良くなく、粋でもなくキャピキャピもしていませんが、それなりに冬の午後を楽しく盛り上げてくれることでしょう。

良いお年をお迎えください。新年も宜しくお願い致します。